令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人広島大学

１ 全体評価

広島大学は、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、伝統と実績を活かした教養教育及び世界トップレベルの研究に裏打ちされた専門教育を根幹に「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」を持続的に輩出し、「100年後にも世界で光り輝く大学」となることを目指している。第３期中期目標期間においては、世界大学ランキングトップ100に入る総合研究大学になるべく、国際水準の教育研究の展開に向けて、「広島大学改革構想」の着実な実行により、「大学改革」と「国際化」を大胆に推進し、世界に通用するリーダーを育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、外国大学のキャンパスを学内設置し、タウン（街）とガウン（学生や教員）が一体となったまちづくりや地域におけるSDGsの達成に向けた課題解決を目指して取り組んでいるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　他機関との連携による新たな研究領域の創生及び新領域の研究活動を担っていく次世代の研究リーダー育成を目的として、連携研究拠点「広大・理研連携研究拠点」において、マッチングファンド「理研-広島大学科学技術ハブ共同研究プログラム」の公募を実施しているほか、広島大学FE・SDGsネットワーク拠点（NERPS）において、研究助成金付きクロスアポイントメントにより大学として重点的に取り組むべき領域に外国人研究者４名を配置し学内研究者との異分野融合研究創出の機会を設けている。（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）

○　日本語・日本文化に興味のある中国の大学生に対して、実践的な日本語運用能力・日本文化理解力向上のための教育を行っていくため、中国首都師範大学と覚書を締結し、広島大学森戸国際高等教育学院北京校を設置している。（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 新たな教員評価制度の導入

これまで部局ごとに実施していた教員評価制度を見直し、教員の年齢や職位に関わらず、能力・業績を公正かつ適正に評価するための全学統一の新たな教員評価制度を導入することとしている。新しい制度では、教員の活動を「教育活動」、「研究活動」、「医療活動」、「学内業務活動」、「学界・社会活動」に分類し、85項目で構成する新たな教員個人評価基準「P-I基準表」（Professional-Indicator）を設定しており、評価結果を基に、給与処遇（昇給及び勤勉手当）に反映するほか、極めて優秀な教員に対して、給与以外のインセンティブ（契約職員の配置、研究時間の確保、研究設備の充実 等）を付与する方針を決定している。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載６事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 外国大学キャンパスの設置

大学間協定校である米国アリゾナ州立大学（ASU）の日本校であるアリゾナ州立大学／サンダーバードグローバル経営大学院－広島大学グローバル校を東広島キャンパスに共同設置している。外国大学のキャンパスを学内に設置するのは国立大学で初であり、ASUが持つ地元自治体（テンピ市）との強い連携による都市づくりの実績とノウハウを生かし、東広島市とタウン（街）とガウン（学生や教員）が一体となったまちづくりや、地域におけるSDGsの達成に向けた課題の解決を目指し取り組んでいくこととして、Town and Gown Office準備室を設置し、世界最先端の教育フィールドとするために優秀な外国人教員や留学生の受入体制を整備している。

共同利用・共同研究拠点

○ テレビ番組制作による情報発信の強化

原爆放射線医科学研究所では、ネットワーク型拠点の中核機関として、これまで市民を対象に集合形式で開催していたふくしま県民公開大学を、テレビ番組を制作し放送する形で開催している。ウェブサイトでの広報等を主導することによって、拠点としての取組や研究者の研究成果を一般の方にも幅広く発信している。

○ VR技術を活用した高大連携、施設公開等の取組

放射光科学研究センターでは、ポストコロナの新たな社会に対応するため、VRゴーグル16台を整備し、VR技術を活用した施設見学コンテンツを製作している。これを用いて、遠隔地の中学校でVR施設見学・科学実験セミナーを実施するほか、東広島市教育委員会と連携して遠隔地の中学校に放射光科学を紹介する事業を開始している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 内視鏡トレーニングセンターを設置

学部生や研修医、若手医師らの内視鏡操作技術のスキルアップを図るため、「内視鏡トレーニングセンター」を５月に設置し、初学者でも扱える模型から電子内視鏡システム等の最新機器までトレーニングのための各種設備を備え、ベテランの専門医が学生・研修医に指導できる環境を整えている。

（診療面）

○ 国際医療支援部の設置等を通じた外国人患者への対応を強化

増加する外国人患者への医療サービスの充実と病院スタッフの負担軽減を図るため、国際医療支援部を５月に設置し、外国人患者が安全かつスムーズに受診できるよう、体制整備を行うとともに、医療国際展開を推進する中核機関である、Medical Excellence JAPAN（MEJ）が認証する「ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）」を受審し、１月に推奨を受けるなど、最先端の医療サービスを国内外へ提供できる体制を整えている。

（運営面）

○ 新型コロナウイルス感染症に対する取組

小学校臨時休校に対応するため、学内に急遽開設した学童保育により、子育て中の医療現場スタッフの勤務継続を支援するともに、広島県内の医療機関に勤務する医師等を対象として、新型コロナウイルス感染症の重症患者の人工呼吸管理やECMO療法に対応できる人材の養成を目的とした講習会の開催や県が設置したトリアージ外来へ、医療従事者を派遣するなど新型コロナウイルス感染症対応に貢献している。